

自己と他者の多様性を生きる

京都大学文学部一回生、茨木高校 76 期卒業生

神社の境内には不思議な感覚がある。境内を歩いていると、何もないのだけれど、何か体が触れてそわそわするような感覚がある。初めて茨木高校を訪れた時にもこの感覚があった。今となっては何気ない場所なのだけれど、鉄筋コンクリートの校舎も煌々と輝く π の校章も、あの時は、神社が与えるものと同じ、不思議な感覚があった。それは、茨木高校が神社のように、様々な歴史や精神が刻まれ、受け継がれている場所だからなのだと思います。茨木高校は私の人生にとっても、他の卒業生にとっても特別な場所です。今日は茨木高校の魅力と、私が茨木高校での生活を通して学んだこととお話ししたいと思います。

茨木高校の一番の魅力は、様々なことにチャレンジするきっかけが「散りばめられている」ところです。強制されないものに自ら挑戦することはすごく勇気のいることです。失敗したらどうしようだとか、途中で投げ出したくなったらどうしようだとか、挑戦しない方が、安全で楽で、楽しいのではないかと。こう聞くと、「強制する」ことの方が優しさのように感じ、「強制しない」ことは、ちょっと冷たく感じるかもしれません。しかし、何かに挑戦する上で一番大切なことは、飽くなき好奇心をもって、失敗だとか、結果だとかには目を向けないことだと思います。高校生の頃に、先の見えないものに挑戦した経験は必ず今後の人生に役立つものだと思います。そういった経験をするチャンスを茨木高校は用意してくれています。

次に、私が茨木高校での生活を通して学んだことについてお話ししたいと思います。それは、自己は多様な存在であるということ、また自己は多様な他者と生きているということです。他者と生きるということはどの環境にも当てはまるかもしれませんが、茨木高校には本当に多様な人たちがいます。自分の好きなことをとことん極めて、その道の研究者にまでなる人、何でも完璧にこなしてしまう人、おどけた性格なのだけれど、皆から信頼され慕われている

人。高校生になった頃の私は、物事を決めつけ、画一的な考えに囚われていました。また、自分とはこういう人間だと、自己を正しく捉えるというより、自己をステレオタイプ化しており、「だから違う境遇の人とは理解しあえない」と勝手に決めつけていました。しかし、茨木高校での様々な人たちとの出会いを通して、他者だけでなく自分自身の中にも理解していない部分があると気づけたことで、自己も他者も無駄な先入観なく捉えていくことができるようになり、自分とは全く違った考えを持つ人と出会っても、他者との違いに苛立つのではなく、相手を全力で理解しようとする姿勢が身につきました。もちろん、高校生活の中で、違う考えを持つ他者とぶつかり合い、相手を理解できず不満に思い、嫌いになってしまうこともありました。しかし、こうした心の傷を感じながら高校生活を送れたことで、今では、他者にもそして自分自身にも本当に優しく接することができるようになってきたのではないかと思います。

多くの卒業生がおっしゃるように、茨木高校にはたくさんの挑戦の場があり、勉強もしないといけない、部活も頑張らないといけないとがんだらめになってしまうことがあるかもしれません。私自身も高校一年生の春に、スプリングセミナーという高大連携企画の委員長を務めました。当時は高校にも入学したばかりで、右も左もわからずに行事を進めていかなければならない状況にひどく不安を感じていたのを覚えています。しかし、いざやり切ってみると、「やっぱりやってよかったな」と達成感を抱いていましたし、感じた不安の分だけ強くなれた気がします。

また、茨木高校にはパンフレットにもあるように、「丸くなるな、無限であれ」、「一兎でなく二兎も三兎も」といったやりたいことを何個でも挑戦できる環境があります。やりたいことを何個でもといわれると、より多くのことをこなせる方が良いように聞こえるかもしれませんが、実際、茨木高校にはなんでもできてしまう人が一定数います。高校では、そういう人を見て自分と比較し、劣等感に苛まれている人を多く見ました。しかし、本当はやることやその数、その速度や結果ではなく、それぞれが自分に合った速度で、のびのびと頑張っているのです。部活に入らず、勉強や趣味に勤しむことも、前例のない一見、向こう見ずな挑戦をすることも、部活をして行事に取り組み、勉強を頑張るといふ、ある種の理想像と等しく尊いことだと私は思います。大切なことは

自分がすること、そして、「した」ことに自信を持つことです。その結果には左右されなくて良いのです。茨木高校には、自分の信じた道を突き進む気運が今日まで累々と受け継がれています。ここでは、色々な経験を積ませていただきました。中には、やらない方がよかったのではないかと後悔しそうになったこともあります。しかし、今となってはその一つ一つが大切な経験となっています。美談ではなく、この高校では本当に、全員がそういった経験を積むことができると思います。まだまだ進路が定まっておらず不安を感じている、あるいは目指したい進路、志望校があるけれど、決心できずに踏み留まっているお子様もいらっしゃるかもしれません。そういった方にこそ、私は自分の望んだ道を信じてひたむきに頑張っていたいただきたいです。そうすれば、結果云々ではなく、きっと進路が定まった際には大きな達成感を得られていると思います。微力ではございますが、中学生の皆さまの大いなるご成長を陰ながら応援しております。以上で、茨木高校学校説明会卒業生スピーチとさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。